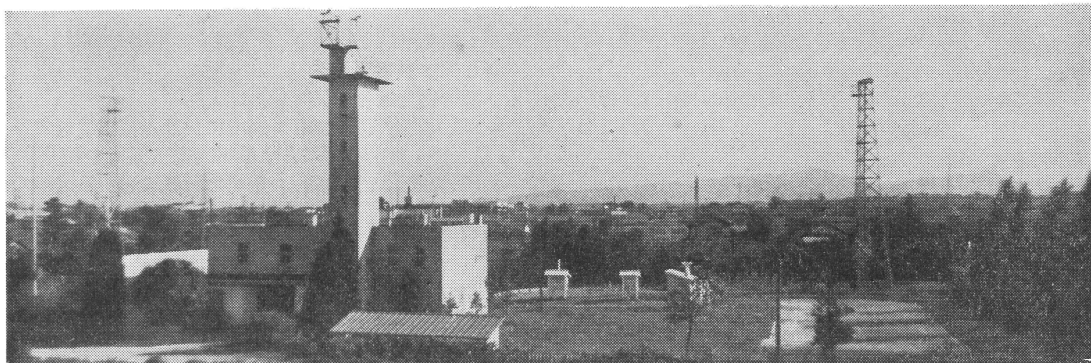


## 地方だより

## 宮崎地方気象台



宮崎地方気象台本館と露場，右方の空地はテニスコート

東京から急行高千穂で西下すること28時間、ピロウ、フェニックス等の熱帯樹しげる宮崎にはるばる訪れた人は、空の色が明るすぎて強烈だとさえる。古来「日向の国」と呼称され、懐しがられたのもゆえなしとしない。この日向の国宮崎は皇祖神話の発祥の地であり、「台風銀座」の語源の地でもある。今でこそ「台風銀座」の形容は関東以西の各地で用いられるようになったが、実のところ、その語源をたどると昭和24年にさかのぼる。当時朝日新聞宮崎支局詰めの記者栗田実美氏（現西部本社詰め?）が、デラ、フェイ、ジュディス等の台風が相次いで上陸通過した直後の宮崎県の惨状を「台風銀座」の新語で形容したのがそのはじまりである。

この台風銀座の宮崎も地理的には表日本に位置しながら、九州では裏日本の存在で、陸の孤島と言われたこともあったが、航空路の開発と相俟って、今では福岡県に次ぐ航空県にのしり空から宮崎入りする人の多いことに驚かされる。地図の上では単調に見える宮崎県も、一度ここに訪れた人は神話と古墳、伝説と民謡、熱帯的景観と純朴、さらに近代工業とダム等々その観光源の豊富なことに飽くことをしらないと言う。宮崎の宣伝はこれくらいにして……………。

さて、宮崎地方気象台の創立は明治16年1月1日で、76周年の歴史と伝統が先人の努力によって累積されている。現在多賀将台長以下30名の職員が健康で明朗なふん

囲気のもとで、天との職場を守りぬいている。

庁舎は昭和28年に新築されたもので、鉄筋コンクリート二階建延388平方メートルもあるが、業務の累増、定員の増加、および防災連絡協議会等の付属機関の設置等にもないすでに狭あいを痛感している。これも気象界発展の一こまとしてのうれしい悲鳴でもあろう。

当地の中学校で「将来希望する職業は」のアンケートをとったところ、気象台の技師になりたいというのが一番多かったという土地だけに、一般県民の理解が深く、かつ大切にされていることを付加しておこう。

なお本年度中に宮崎空港分室も設置されるみこみである。

（今門記、大籠写）



フェニックス街路樹のある明るい宮崎市